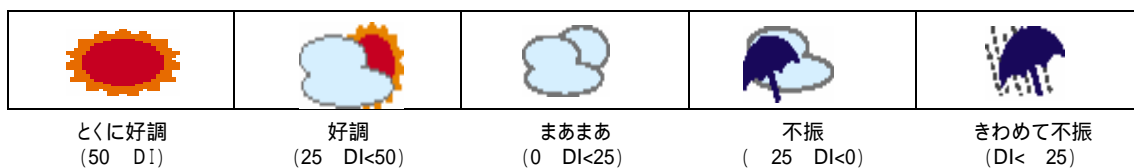


1. 平成23年4月～6月期の景気動向

全業種のDI平均値は、前期(1～3月期)の40.4ポイントから5ポイント悪化し、45.4ポイントとなった。業種では、建設業とサービス業は改善されているものの製造業、卸売業、小売業は悪化した結果となった。一部での震災復興需要はあるものの、全業種とも需要の停滞を当面の問題として一位にあげている。

業種 項目		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		54 (54)	77 (69)	41 (15)	34 (4)	75 (40)	75 (10)	48 (34)	58 (34)	47 (33)	29 (41)
採算		62 (69)	77 (75)	48 (38)	44 (27)	50 (44)	50 (40)	56 (49)	46 (52)	38 (54)	29 (46)
資金繰り		46 (38)	54 (54)	20 (26)	27 (15)	25 (30)	25 (30)	37 (27)	42 (27)	30 (48)	20 (34)
業況		39 (61)	69 (77)	46 (20)	42 (15)	57 (30)	43 (20)	43 (40)	50 (38)	42 (54)	24 (35)
経営上の 当面する 問題点	1位	官公需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞	
	2位	民間需要の停滞		製品(加工)単価の低下		販売単価の低下		購買力の他地域への流出		利用者ニーズの変化への対応	
	3位	請負単価の低下		製品ニーズの変化への対応		代金回収の悪化		消費者ニーズの変化への対応		材料等仕入単価の上昇	
業種別 コメント		<p>今期に入っても公共、民間需要ともに停滞しており、震災前から長期的不振が続いているため、前期比較でもDI値に大きな変化はない。震災の影響による資材不足の懸念は、落ち着き始めているが、業界全体の需要の停滞と競争の激化により売上、採算ともに依然厳しい状況が続くことが予想される。</p>		<p>前期に比べ売上高DI値で26ポイント悪化が見られた。震災による納品ストップや受注の減少などが要因と思われる。震災後の電力不足による生産体制の変更など、来期も厳しい状況が続くことが予想される。</p>		<p>前期見通しでは改善傾向が見られたが、震災の影響から流通がストップし、コストの上昇、需要の停滞、単価の低下などが発生、前期調査に比べ売上高DI値で35ポイント悪化した。来期の見通しでは商品仕入れの問題は落ち着くと思われるが、需要の停滞が依然続くと見られ、来期も厳しい状況が続くと思われる。</p>		<p>震災の影響から、前半は自粛ムードが漂い、前期調査時点に比べ全般的にDI値はマイナスに落ち込んだ。後半、内食への移行から生鮮食料販売を中心にGWあたりまで対前年比プラスになった。業種もある。後半に入り自粛ムードも払拭され、節電への取り組みからクールビズ需要による夏物衣料やエアコンなど家電製品の伸び、さらにはアナログ放送終了による地デジ対応テレビの駆け込み需要などで、一部業種では改善が見られた。全体的には厳しい経済環境から、来期も一層厳しい状況が続くと思われる。</p>		<p>震災の影響による自粛ムードで、飲食業を中心に歓送迎会や各イベントのキャンセルが相次ぎ、大幅な売上減少に転じたが、徐々に自粛ムードも落ち着きを戻し、GW後半からは大幅に改善してきた。しかし、放射能汚染により材料等の高騰から、採算等厳しい状況が続いている。来期見通しでは、イベントやレジャーを中心に全般的に落ち着きを取り戻すと見ており、DI値も徐々に改善傾向にある。</p>	



当所では分析にあたってD・I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

()は前回調査時のD・I値